

グリーンベルト — 東山キャンパスのメインストリート —

豊田講堂から西へ帯状に伸びる緑豊かな一帯、いわゆる「グリーンベルト」は、東山キャンパスのメインストリートであり、名大祭でも最もにぎわう場所です。これができたのは、1960年代半ば頃のことです。

講堂から西へメインストリートを伸ばす計画は、すでに戦前の創立時からありました。しかし戦後、財政難により講堂の建設は遅れ、学部等の東山への集結も容易ではなく、計画はなかなか実現しませんでした。

1960(昭和35)年に豊田講堂が建設され、そこから西を望む一帯の北側には工学部や理学部の校舎が、南側には文系学部や教養部の校舎、古川図書館などが立ち並ぶ景観が現実のものとなっていきました。ただ当初、このメインストリートとなるべき一帯は、ほとんど整備されていませんでした(写真1)。

ようやく1963(昭和38)年度からメインストリートに関する予算が認められるようになり、グリーンベル

トの整備が始まりました。芝生や樹木が植えられ、噴水や現在も残る池も造られました。名大の整備計画委員会の記録を見ると、整備前は中央広場、メインストリートなどと呼んでいたようです。

名大祭のパフレットに「グリーンベルト」という言葉が初めて登場するのは1966年です。77年には「グリーン(ベルト)フェスティバル」が始まりました。80年代に入るとアマチュアバンドコンサートが始まり、グリーンベルト両側の道の模擬店であふれるようになりました。

1981年には現在の中央図書館が建設され、グリーンベルトの景観が大きく変わりました。1994(平成6)年には、現在でも名大祭で多くの行事が行われる野外ステージが造られています。近年では、「グリーンベルトを花いっぱい計画」と銘打った取り組みが行われ、四季折り折りの彩りも見られるようになりました。



- 1 1962年頃の航空写真。
- 2 1970年のグリーンベルト。
- 3 現在のグリーンベルト(2015年撮影)。一般に、豊田講堂に隣接する芝生の区域を第1グリーンベルト、道路を挟んでその西側の一帯を第2グリーンベルト、中央図書館裏側のグラウンドを第3グリーンベルトと呼んでいる。
- 4 第2グリーンベルトの野外ステージ(2017年名大祭)。

BRIEF HISTORY OF NAGOYA UNIVERSITY

人を伸ばす、明日を創る、世界と歩む



プロジェクト
NU MIRAI

名古屋大学基金のご案内

名古屋大学が優れた人材輩出や世界的な研究成果により、今後も日本や地域に貢献し続けるには、安定した独自財源が必要です。「名古屋大学基金」はその基盤であり、皆様からのご寄附を、さまざまな事業に活用させていただきます。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

特定基金

名古屋大学基金の中には、研究推進や人材育成など、支援目的を特定してご寄附いただける事業もご用意しております。



ご寄附のお申込み、お問い合わせは Development Office (DO室) あて (電話052-789-4993、Eメールkikin@adm.nagoya-u.ac.jp) にお願いたします。詳しくはホームページをご覧ください。

名古屋大学基金



<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/kikin/>

アクセスはこちらから ▶

